

政治②「基本的人権の尊重」

基本事項の確認

 10分

1. さまざまな基本的人権と人権をめぐる問題

(1) 日本国憲法の内容を中心に、基本的人権について表にまとめなさい。

①[1]権	すべての人権の基礎。個人の尊重、法の下での平等、両性の本質的平等。
②[2]権	③[3]の自由 ・ 奴隷的拘束および苦役からの自由(意に反する苦役を受けない自由)。 ・ 犯罪捜査や刑罰を受ける人の人権を保障。
	④[4]の自由 ものを考え、思想や信仰をもち、意見を発表する自由。 ・ 思想および良心の自由 ・ 信教の自由(宗教を信じる自由)。 ・ 集会・結社・⑤[5]の自由 ・ 学問の自由
	⑥[6]の自由 ・ 居住・移転・⑦[7]の自由 ・ 財産権の保障(国家から一方的に財産を奪われない自由)。
⑧[8]権	⑨[9]権 「⑩[10]で⑪[11]な最低限度の生活を営む権利」
	能力に応じてひとしく⑫[12]を受ける権利
	勤労の権利 労働者は使用者より弱い立場にあるため、この権利を保障している。 ⑬[13]基本権(三権) ・ ⑭[14]権…労働組合を結成する権利。 ・ ⑮[15]権…使用者と労働条件について交渉する権利。 ・ ⑯[16]権(争議権)…ストライキなどを行う権利。
人権を守るための権利	⑰[17]権 国民が政治に参加する権利。 ・ ⑱[18]権(議員などを選定する権利。日本国憲法第15条③は、納税額や財産で差別しない「普通選挙」を定めている。)など
	請願権 国の機関に要望を出す権利。
	裁判を受ける権利
	国家賠償請求権 公務員の不法行為による損害に対して賠償を請求する権利。
	刑事補償請求権 無罪判決を受けた人が、捜査や誤った判決によって自由を奪われたことに対する賠償を請求する権利。
(日本国憲法に明記されていない、新しい人権)	⑲[19]権 良好な環境を享受する権利。→環境アセスメント(環境影響評価)制度
	知る権利 政府に関する情報を要求・享受する権利。→国・地方の情報公開制度
	プライバシーの権利 私的な生活を他人に干渉されない権利。
	自己決定権 自分の判断で自由に生き方を選ぶ権利。→インフォームド・コンセント
●これらの人権は、社会の大多数の人々の人権や社会全体の平穏な共同生活を守るため、⑳[20]による制約を受ける。	

次ページにつづく▶▶▶

(2) 人権をめぐる問題について、次の問いに答えなさい。

① 政府によって独自の文化を否定されるなどの差別を受けてきたが、1997年に民族の文化や伝統を守る法律が定められた、北海道の先住民を何というか。カタカナで記せ。

[21]

② 障がい者や高齢者が、それ以外の人といっしょの社会で安全・快適に暮らせるよう、こうした人々にとって障壁になるものを取り除いていくことをカタカナで何というか。

[22]

③ 世界人権宣言の精神にもとづき、1966年に国際連合総会で採択され、1979年には日本も批准した、人権を国際的に守るための条約を何というか。

[23]